

黒岩探訪

たんぼう

24

KUROIWA
くろいわ

のうぎようの 守り本尊

赤城神社

今年のお正月に黒岩神社に初詣に行き、黒岩小学校児童の成長と地域の安全及び発展をお願いしました。宮本という地区があることを知った時、では神社はどこにあるのかなと思いましたが、普通「宮本」という地名があれば、その地域の鎮守、産土（うぶすな）にあたる神社が存在するからです。すぐに黒岩（赤城）神社があることがわかりました。訪れるのは新年になってからになりました。

黒岩カルタでは、冒頭のような読み札になっています。児童から「赤」だか「黒」だかどっち？という声も聞こえてきます。黒岩神社は、字赤城五二三番地にあります。周辺の字名が赤城ですから、その由来は赤城神社であったと考えられます。もと赤城神社であったのが、明治時代末期の一社一社制度によりいくつかの村内の神社が合祀された結果、黒岩神社となったと思われます。『黒岩村誌』には、「大字上黒岩、

下黒岩の鎮守であること」「祭神は、國主之神」、「祭日の9月29日には、村長も参加する祭典儀式に学校長以下生徒も出席したこと」が書かれています。また、昭和59年発行の『富岡市史・民俗編』では、「祭日は、以前は9月29日であったが、晩秋蚕の関係で10月15日に変え、黒岩全体でお祭りをやっている。祭りの前日を、よいまちまたはよいまつりといひ、各部落ごとに幟（のぼ）りを立てた。嫁にいった娘たちが子供を連れてお客に來たので、各家族とも大変にぎやかで、夕食なども、普段は芋の入ったお切り込みだが、この日は手打ちのうどんを食べた。祭りの日には、下黒岩は神楽と獅子舞を、上黒岩が山車を出し、村中を山車と獅子がいやぎりながら歩きにぎやかだった。」とあり、昔の様子がいかにのびやかであることが記述されています。『北甘楽郡史』を記述した本多龜三先生も、この神社に関して「創立

年代、及、勢多郡の赤城社と如何なる関係あるべきか、これらの事につきては、未だ詳らかならず。」といひます。私も、上野国（こうづけのくに）一ノ宮の貫前神社のすぐ近くに、上野国の二ノ宮である赤城神社が（末社かどうか不明）あることが不思議に思ひます。創立時代は不明ですが、鳥居をくぐった所の両脇にある石燈籠には、東側は享保11年（一七二六年）下黒岩村の寄進によること、西側は享保17年（一七三二年）上黒岩村の寄進によることが彫られていひます。このことから、一村一社制度になるのはるか前から、上下合わせた黒岩村の鎮守様であったと考えられます。

現在の鳥居、石段、拝殿は新しく整備されています。拝殿の奥にある本殿は覆屋（おおいや）の中なので詳しくは分かりませんが、古い建造物のようには見えません。



写真1 黒岩神社



写真2 石燈籠



写真3 手洗石（ちょうずいし）明治15年